

令和6年度 第1回みんなで支える森林づくり 北信地域会議概要

北信地域振興局林務課

1 開催日時

令和6年7月16日（火） 12時40分～16時30分

2 開催場所

- ・現地調査 飯山市 小境・鷹落山麓地区（開かれた里山の整備・利用推進事業）
- ・会議 長野県北信合同庁舎 講堂

3 出席者

・構成員

上野構成員、小嶋構成員、高村構成員（座長）、中澤構成員、藤田構成員、山岸構成員

・小境・鷹落山麓里山整備利用推進協議会

事業担当者

・北信地域振興局

小池局長、坪井林務課長、神谷企画幹、松尾課長補佐、川村事務員

4 会議事項

- (1) 開かれた里山の整備・利用推進事業について（資料1）
- (2) 森林づくり県民税活用事業 令和5年度実績・令和6年度計画について（資料2）

5 質疑応答（①～④：質問・意見 →：説明・回答）

(1) 開かれた里山の整備・利用推進事業について

里山整備利用推進協議会担当者から、資料1で事業計画を説明

- ①里山整備利用推進協議会では、地域住民の理解をいかに得るかが重要。
地域の役員は毎年変わる中、事業ではどのように地域の協力を得ていくか。
→当該地域は穀倉地帯で、地域にとって「水」への関心は非常に高い。
水＝森であり、地域住民は森をどう維持管理するかで悩んでいる。
自身が集落に移住して以降、地区の「おてんま作業」に関わっているが、過疎高齢地域で森の全てを管理するのは大変。地域外のマンパワーを活用した森の管理を区に提案し、他事業等で整備実績を積み上げる中で地元理解を深めてきた。
- ②学生と一緒に伐った山の木を建物に活用した一連の取組（元気づくり支援金事業）はとても良い取組。計画されている事業でも学生に森のことを伝えてほしい。
- ③山の整備は、補助金で賄われることが多い。補助金は未来永劫でない中、外部の手を借りて整備を進める上で、人材を確保し続けることは可能か。
→補助金頼みだと、継続性に不安はある。この5年の活動で培った繋がりがあがる。
森林税は活用しつつ、大学卒業後も何とか継続して来て貰えるよう取り組みたい。
- ④計上している予算はどのような内容に活用する予定か。
補助金を活用して最終的に手弁当で来て貰える仕組みづくりができる内容か。
→令和7年度は道の整備に充てる以外は未定。令和6年度は森林整備イベントの講師謝金、イベントで使うチェーンソー等の資機材整備に充てたい。
- 我々も補助金は時々活用するが、用途など厳密。大変だが頑張っていたきたい。

(座長)

- 意見が出揃ったので、これまでのご意見を踏まえ、地域会議として事業計画を承認することとしたいがいかが。(異議なし)
承認ということで、事業を進めていただきたい。

(2) 森林づくり県民税活用事業 令和5年度実績・令和6年度計画について

地域会議事務局から、資料2で税事業の北信地域の実績・計画を説明

→昨年度の地域会議において、管内の森林税活用額が県全体の2%程度と低調とのご意見をいただき、局として事業確保等の調整に取り組んできたところ。

令和6年度の北信地域の予算額は2370万円ほど、県予算に占める割合は4.2%で、森林税の徴収規模である人口割の指標を見た場合、北信管内は4.0%なので、相応規模の予算額と考えている旨説明。

①初めて会議に参加して説明を受けたが、県民税が多岐に渡って予算が仕分けられており、森林整備だけでなく色々な事業に充てられていることを初めて知った。

- 木工工作の体験事業は、自身が所属する団体の事業。

木工工作コンクールは全国で15,000件の応募があるが、長野県はその内4,000~5,000件の応募と、かなり多くの応募はあるが、最高賞である文部科学大臣賞は、未だ受賞していない。何とか受賞出来るよう頑張るので、森林税の支援を引き続きお願いしたい。

- 森林税は里山整備など、伐採中心の事業であるが、木材利用といった出口対策が、まだまだ必要と考える。製材加工といった川中への支援では何が良いかすぐに思い浮かばないが、製材工場がどんどん減少する中、何らかの支援が必要と、常々感じていた。今回、会議参加の機会があったので、意見したところ。

→山の木が成熟する中、今後における木材活用は森林整備と合わせ、車の両輪。報道にもあるように木材産業は大規模工場と中小規模工場の格差が大きく、中小工場は後継者確保で苦慮し、会社存続そのものへの影響があるとも聞いている。木材利用における森林税の活用については、例えば後継者確保対策など考えられることがないのか、県でも知恵を絞る必要がある。

皆さんからアイデア、ご意見をいただくとともに、会議でそのようなご意見、ご要望があったことを、県に伝えてまいります。

- この場ですぐ言えるアイデアはないが、どのような支援があれば中小零細の製材業が事業継続できるか、同業者の集まりでも話してみたい。

②やはり将来の人材を育てることは重要。地域資源を活かした魅力的な産業であることを高校ではどう伝えているか、参考までに聞かせてほしい。(校長先生への質問)

→下高井農林高校では2コースの内、環境創造コースが林業関係についても学ぶコース。竹林の整備と竹の活用に取り組んでいる。地域とのつながりでは、遊歩道や林道を整備し、観光活用など地域貢献できるような取り組みを行っている。学校では学年の枠を超えて、デイキャンプで火おこし、ピザづくりなど、農林高校らしい、木に親しむ活動を通じて、地域を担う人材になってほしいと願っている。

③今年、中野市のイベントで公園内の樹木が倒れ、子供が怪我する事故があった。公園樹木の確認については、市から指定管理団体に調査要請があり、必要なものは樹木伐採が始まっている。このような樹木伐採は、森林税の支援対象となるか。

- 現在行われている、街中の緑地整備については、建設部で予算執行しているが、建設部のグリーンインフラ推進計画の位置付けがあり、エリアビジョンを策定した市町村のみが事業の対象となっており、現時点ではごく一部の市町村のみが対象であるため、幅広く、満遍ない支援という形ではない状況。
予算的な限りもあるとは思われるが、公園樹木の伐採についても、森林税の事業対象としてほしい旨の要望があったことを、県に伝えてまいりたい。
- ④会議全体を通じての感想であるが、昨年の地域会議で出された意見に対して、良く対応していただいている印象を受けた。
- ⑤小学校、中学校、高校等、再編において、校舎についても検討されているが、そのようなところに県産材が使われることで、木の温もりを感じられることは大切。可能であれば、積極的に県産材が活用されるよう取組を進めてほしい。
- また、木工教室の開催において、本格的な施設整備ということではなく、比較的簡単に取り組めるような支援があると良いと感じた。
- 学校等の木造木質化について、なるべく県産材を活用してほしいことから、今年度は各市町村を回り、教育委員会も含めて説明・要請をしてきたところ。
予算面から、大規模な事業は国庫補助事業を、小規模な内装木質化などは森林税の活用が現実的。森林税に限らず、県産材の活用推進に取り組んでまいりたい。
学校の森林体験については、地域の高水林業協議会という団体が取り組んでいるので、学校の声もお聞きしながら連携できるよう取り組んでまいりたい。
- ⑥森林が放置され、災害につながることはないよう、森林所有者の皆さんも山を持っていて良かったと言って貰えるよう、良い循環で森林が管理されるよう、私たち森林組合も森林整備を頑張りたい。
また、再生林の苗木不足という問題もあるので、そちらもお願いしたい。
- 栄村森林組合でも主伐再生林の取組が始まっているので、そのような取り組みを多くの方に見て貰うこと、県としても連携して取り組みたい。
また、苗木の確保については再生林で重要な話。苗木確保のための調整がしっかりなされるよう、県に伝えてまいりたい。

以上